

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホーム オアシス中之郷 1階		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	令和5年4月1日	評価結果市町村受理日	令和5年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JivvosyoCd=2293100026-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5 年 4 月 28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅にいるような家庭的な雰囲気を大切にしています。またひとりひとりの生きがいを尊重し個別支援に力を入れています。アクティビティを多く取り入れ季節の行事や外出の機会を確保し生活にメリハリがつくように心掛けています。近年はコロナ過で外部のイベントやボランティアの受け入れを再開しています。変わらずに行っているオアシスの強みは、毎日散歩をしており季節の移り変わりを楽しみ、外気浴を行うことで昼夜逆転を防ぎ健康的な生活を送れるように支援しています。施設で行う行事は毎月の持ち回りで担当者が企画し飽きがこない工夫をしている。職員研修は毎月のホーム会議内で行い、困っていることや勉強したいことなどリクエストに応じて柔軟に対応している。職員は全員委員会活動をして環境の整備や感染対策などを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念と「オアシス十か条」を整え、管理者会議・ユニットリーダー会議・ホーム会議により情報共有を図り、理念の実践に取り組んでいる。管理者・職員は、9つの委員会活動・定期的な職員研修・年2回の個人面談にて、意見交換やスキルアップを図っている。担当職員を中心に全職員で毎月カンファレンスを行い、利用者・家族の意向や希望に沿った介護計画の作成に繋げている。運営推進会議議事録や「オアシスだより」を家族へ送って事業所での暮らしぶりを伝えと共に、「満足度アンケート」を実施して、家族からの意見の聴き取りに注力している。コロナ禍においても感染防止対策に十分注意を払いながら、日課とする散歩の継続、公民館行事への参加、ボランティア受入れ等を続け、地域住民との関係継続を図っている。職員は、安全で清潔な環境整備、調理専門職員による食事の提供、個別対応の外出など、利用者本位の暮らし方を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者会議、ユニットリーダー会議、ホーム会議で理念、オアシス十か条を読み上げ全職員で共有し日々の支援に繋がるように心掛けている	毎月、法人の「管理者会議」、事業所の「ユニットリーダー会議」、法人代表も参加する職員全員参加の「ホーム会議」にて、法人理念の共有を図っている。職員は、ホーム会議や朝礼にて理念や「オアシス十か条」を読み上げて確認し、常に理念に基づく支援を心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課の散歩の際に近所の方と挨拶を交わし顔見知りの関係を築いている、コロナ感染症の状況を見ながら昨年末位からボランティアの受け入れを徐々に行っている。道路を挟み向かいの公民館の行事にも参加している	コロナ禍であっても、感染防止対策に注意を払いながら事業所周辺の散歩を慣行化し、近隣住民とのふれあいを継続している。感染状況をみながら公民館行事への参加やボランティア受け入れを実施し、地域住民との交流継続を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭り、防災訓練は以前は毎年参加させてもらっていましたが近年はコロナ禍で参加できていなかった。春と秋のどぶ掃除は参加させていただいている。今年から夏祭りが再開できる見込みなので以前から行っているちらし寿司150食の寄付を再開する予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面開催としているが、通常は2月に1回開催し市役所職員、地域包括支援センターの職員、区長、民生委員、家族、入居者が参加し日々の利用者様の様子や職員が行っている研修の報告をして参加者からの意見をいただき支援の参考にしている	コロナ禍のため、運営推進会議は2か月に1回書面にて開催して、行政職員、自治会長、民生委員、家族からの意見の聴き取りに注力している。議事録は、地域包括支援センターへは手渡し、家族へは事業所の「オアシスだより」と共に送付し、事業所の現況や取り組みを報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが行う地域ケア会議(4回/年)や市のグループホーム連絡会(4回/年)に参加し研修会や交流会を行い意見交換をしている	地域包括支援センターの「地域ケア会議(ZOOM開催)」や富士市GH連絡会に参加して、積極的に行政との情報共有を図り、事業所運営に反映している。運営推進会議議事録を手渡しし、常に意見交換できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており自由に入出入りできるようになっています。身体拘束に関わる指針、マニュアルを整え身体拘束適正化委員会を3か月に1回行いホーム会議内で全職員と共有している	指針・マニュアルを整え、3か月に1回「身体拘束適正化委員会」の開催と年2回職員研修により、身体拘束を行わない支援に取り組んでいる。現在該当する利用者はいないが、ホーム会議開催時には全職員で話し合い、身体拘束に関する知識の習得と理解を図っている。	

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を定期的に行い自分の介護を振り返る検討会を行っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見制度を利用する入居者がおり地域包括センターと連携したりホーム会議内で権利擁護に関する研修を取り入れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明を行い入居者様、ご家族が納得した上で契約を行っています。入居前にはご家族に施設見学をしていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常的なコミュニケーションの中から聞き出すことがあります。ご家族には来訪時や電話対応でお話を聞きます。また玄関に意見箱を設けてあります。毎月ご家族には写真が掲載されたオアシスだよりを送り日々の暮らしの様子を見ていただいています。ご家族へのアンケートの実施しています	毎月、写真を掲載した「オアシスだより」を送り、事業所での暮らしぶりを伝えている、コロナ感染防止対策を図りながら、玄関での家族面会を続けている。管理者はこまめな電話連絡を心掛けると共に、毎年「満足度アンケート」を実施して、家族からの意見の聴き取りに注力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は9つの委員会のうちどれかを担当しておりホーム会議内で各委員会からの研修や改善点の提案、意見交換等をおこなっている。管理者会議、リーダー会議で現場から聞かれる声を検討したりする機会を設けている。自己評価シートをもとに個別面談を行っている	職員は9つの委員会を分担し、ホーム会議にて研修や改善点等の提案・意見交換を図っている。法人代表と管理者は、ホーム会議での意見や提案を汲み上げ、管理者会議で法人内の情報を共有する仕組みを整えると共に、年2回自己評価シートによる個人面談を行い、意見交換を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は定期的にホームの様子を見に来て職員個々と話をし意見を聞いています。ホーム会議でも取り上げて働きやすい職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議内で内部研修を行っています。毎回テーマをかえていますが職員からのリクエストにも答えられるように対応しています。また人間学を学ぶために毎月月刊誌の対談やインタビュー記事を読んで感想文を書いてもらっています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会を通じて職員は交流会や研修会に参加しています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とできる限り面談を重ねて信頼関係を築く努力をしています。安心して本心を語れるような雰囲気を作るように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に面談を重ね困りごとなど気軽に話せる雰囲気作りを意識して対応しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に応えられるように努めていますが本人とご家族にズレが生じていることがほとんどです。その為修正させてもらっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切に洗濯物干しやたたむ、野菜の皮むき等の役割の家事を日課に取り入れて暮らしを共にする関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでは職員が支援していますがその様子を毎月のオアシスだよりで報告したりコロナ禍でも玄関先での面会を行っており入居者様と職員を交えてお話しさせていただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人のデイサービスを利用されていた方がグループホームに入居になるケースがあるためイベントを共同で行い交流を絶たないように努めています。ホームの向かいの公民館のイベントにも参加し近所の方との関係性を継続できるように努めています	コロナ禍の中でも感染対策を取りながら、家族面会、法人デイサービス利用者との外出・交流や訪問理美容の利用など、利用者個々の希望を聴きながら、関係継続の支援を続けている。コロナ後を見据えて連絡を続けていたため、ボランティア受け入れや行事の再開ができています。	

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がリビングで過ごされるので入居者様同士の相性のよし悪しで座席の場所を配慮しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをしてきた方のご家族がその後もイベントやボランティアに来てくださっています。また家で収穫した野菜や不要になった衣類等(ウエスに使用)や新聞や広告でゴミ箱を折って持ってきてくれたりと今でも関係性が続いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の暮らしができるように課題整理統括表でまとめて全職員と共有している。毎月各利用者の担当職員を中心にカンファレンスを行い見直し、検討会を行っている	管理者は、入居時に「フェイスシート」や「課題分析シート」で得た情報を「課題整理統括表」にまとめ、職員との情報共有を図っている。入居後の状況は担当職員を中心に毎月カンファレンスにて意見交換を行い、全職員が利用者・家族の意向に沿った支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と雑談を交えてお聞きしますが、本人からの聴取が難しい場合はご家族や前ケアマネから情報の提供をお願いして把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題整理統括表や毎月のカンファレンスをもとに日々の変化に素早く気付き対応できるように現場に顔を出しひとりひとりと関わりを持つように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は業務に入る前に日々の変化に対応できるように介護記録、特変記録の確認や毎朝の申し送りを確認します。特変があるときは看護師、医師の助言で対応します。毎月のカンファレンス以外にも意見交換を頻繁に行っており常にチームで支えているという意識があります	職員は、利用者の日々の状況をiPadの「ケース記録」「特変記録」と毎朝の申し送りにより、都度確認している。毎月ホーム会議にて、担当職員を中心に全職員でカンファレンスを行い、介護計画作成に繋げている。管理者は、都度家族との連絡を心掛け、医師・看護師との情報を共有する体制を整え、チームによる支援を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はアイパットに記録されています。日中、夜間の様子や排泄、食事、水分、服薬等の記録をしています。それ以外に特変があれば別紙に記録しいつでも共有できるようにしています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の散歩やイベントを沢山行っています。春、秋の遠足やテラスでのバーベキューパーティーや餃子パーティー、誕生日には個別に企画して外出するケースもあります		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、防災訓練、ホーム向かいの公民館イベントの参加、近所の商店への買い出し、移動スーパーの利用等を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には月2回の協力医の往診を受けていますが、歯科医師とマッサージ師の往診を受けている方が数名います。ホームへ入居前からのかかりつけ医の病院に家族対応で受診されている方もいます。往診医は内科の専門なのでそれ以外の科への受診に行かれる方もいます。同法人の看護師は週1回訪問してきます	協力医の往診(月2回)と法人職員の看護師による訪問(週1回)により、利用者の健康を管理している。管理者・職員は、受診情報を共有すると共に、常に看護師に相談ができる。利用者の状態に合わせて、都度歯科医師やマッサージ師の往診がある。他科通院が必要な場合は、家族と連絡を取りながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が週1回訪問してきます。利用者様全員と面会し心身の観察をしています。その他爪切りや衛生面の管理をしています。必要に応じ電話相談したり特変時には訪問してもらいます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は同行しています。入院中も情報共有に努めています。退院のタイミングや退院後の方向性のアドバイスをもらったり相談をしています。日ごろから医療機関の地域医療支援室と連絡を取り合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の対応について指針、マニュアルを整え入居の際に利用者や家族に説明し同意を得ています。重度化した際には再度医師と共に家族に説明し家族の意向の再確認を行い看取りまでお受けします。その都度の情報は全職員で周知しています。職員は重度化や看取りに関する研修を定期的に行います	指針・マニュアルを整えて、重度化した際の事業所の対応について入居時に利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度医師と共に家族に説明して、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。職員は、定期的に研修を受けて、対応を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急蘇生法の研修を受けています。緊急時の対応に関しては研修会を行っています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加させてもらっています。津波や土砂災害の際はホームの2階が近隣高齢者の緊急避難場所となっています。ホームでは年2回防災訓練を行い10日ほどの水、食料品等の備蓄をしています	防災担当委員を中心にテーマを決めて、年2回防災訓練を実施している。事業所2階が地域住民の緊急避難場所となったことから、更に行政の指定避難場所となるか、検討を続けている。水・食料品の備蓄は、法人本部と共に、10日分を目途に台帳にて管理している。	訓練実施後に評価や課題を整理し、課題改善のためには次回訓練への継続が必要なことから、継続した訓練計画の実践を期待します。令和5年度末までの災害時業務継続計画(BCP)策定に向け、地域住民との連携を含めた計画策定を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に個人情報について利用者、家族に説明し、オアシスだより、新聞等の記載の同意を得ています。また基本的な人格の尊重と利用者本位の介護を行うように認知症、虐待、接遇等の内部研修を定期的に行い職員の意識の向上を図っています	個人情報保護について入居時に利用者・家族に説明し、オアシスだより等の写真掲載等について同意を得ている。人格を尊重した接遇やプライバシー保護について、「オアシス十カ条」を日々確認すると共に、ホーム会議で定期的に行い、職員の意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの個性を引き出せるように傾聴したりよく観察しています。過介護にならないように残存機能を活かし意欲を引き出せるような関りを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のご希望を最優先できるように心掛けています。レクリエーション活動もご自分で選べるように複数用意し対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用し髪を整えています。夜はパジャマに着替えて朝は基本的に自分で選んで着替えていただいています。毎日お化粧をされる方もいますが他の女性は外出時やイベント時に口紅をつけたりしておしゃれをします。男性は毎日髭剃りをし清潔を保ちます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者には野菜の皮むきや切る、炒める等の調理補助をもらっています。地元のスーパーから食材を仕入れ職員が当番制で調理をします。週3回は調理師が昼食とおやつを調理します。誕生日は本人のリクエストに応えます。正月のおせち料理やお餅、遠足のお弁当、夕食を取り入れ楽しんでいただいています	地元スーパーから食材を調達し、職員手作りによる食事を提供している。法人他事業所の献立を参考に偏りのない献立作りや、週3回調理専門職員による昼食やおやつ、夕食(出前)など、利用者と共に、利用者の好みをとりいれながら、美味しく楽しい食事の提供を心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記録し十分とれていない場合はおやつや回数を増やしてバランスをとります。また毎食寒天ゼリーを提供して水分と排便のコントロールの補助食にしています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は個別に口腔ケアを行います。できない部分は介助させていただきます。食事前にマスクを回収し口腔ケア後にお返しするのでお忘れを防ぐ事に役立っています。口腔にトラブルが生じた方は訪問の歯科医師に診ていただきます		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンを把握していますのでトイレでの排泄を支援しています。オムツを使用せず肌に心地良い布パンツとパットを使用している方がほとんどです。身体的に大変な方も二人介助にてトイレでの排泄を行っています。	「排泄チェック表」にて利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ利用を支援している。職員は、情報共有を図りながら安全な排泄支援を心掛け、二人介助や夜間の声掛け、ポータブルトイレ利用等、利用者の状態に配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間に休んでいただけるように毎日の散歩と体操で身体を動かしていただいています。10時のおやつはフルーツとヨーグルトを食べいただき毎食時に食物繊維と水分補給に寒天ゼリーを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をしていますが本人の希望に応じて増える場合や時間帯の変更も対応しています。女性の利用者で男性の介助を拒否する方は同性介助を実施しています。1階と2階の浴槽の作りが異なる為、交代して利用することもあります	週2回・午後の入浴を基本として「入浴チェック表」にて確認しながら、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。同性介助や車椅子利用の対応、入浴剤活用による気分転換など、利用者の状態に合わせて、利用者本位の対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室で横になる方の時間は基本的に本人に決めてもらっています。就寝時間も本人の休みたい時間に休んでもらうようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬委員があり服薬管理ファイルに個人の服薬情報が入っています。病院からの処方や薬のメーカーが変わっても間違えないように配薬と服薬の際に職員2人でダブルチェックをします		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は主婦をしていた方が多いので洗濯や調理等の家事を手伝ってもらっています。カラオケ、歌、読書、手芸、将棋、囲碁等それぞれが楽しめるように配慮しています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では散歩や近所の商店に買い出し、移動スーパーで買い物等を行っています。春、秋の遠足のほかに誕生日に外出支援を行っている。コロナ禍で家族との外出ができていなかったが今後の感染状況を鑑みて再開していく	日課の散歩や、事業所前公民館に来る移動スーパーでの買い物など、利用者個々の希望や状態に合わせた外出支援を続けている。感染対策に十分配慮しながら、地域の公園への弁当持参のお花見や遠足、電車でのお出掛けなど、利用者個々に工夫しながら、積極的にを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は家族管理ですが近所の商店への買い出しや移動スーパーでの買い物はご自分で支払う方もいます。ご自分でお金を持っている方は少額で無くなったらご家族に千円～三千円位を補充していただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも自由に使用できるようにしています。ご自分で携帯電話を持っている方もいますがほとんど使用していない様子。ホームで年賀状や暑中お見舞いのはがきを送っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を保っています。テレビの音は大きくなりすぎないようにし食事の時間には静かなBGMを流しています。室温は軽装で過ごせるように適温を心掛けています。リビングとダイニングにテーブルをセッティングして好きな場所で過ごせるようにしています。中庭があり光が入り晴れた日は日向ぼっこをする方がいます。室内は季節に合わせた装飾を心掛けています	居間等の共有スペースは、BGMや採光に配慮した落ち着いた空間で、利用者は好きな場所で過ごすことができる。季節感のある環境作りと、避難経路確保のための整理整頓を心掛けている。感染防止対策として、空気清浄機を利用した常時換気と手すり等の消毒や外出・訪問時の手指消毒を徹底して、安全な空間・環境作りに注力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにベットがあり居室に行かなくてもどなたでも気軽に横になることができる。またリビング、ダイニングともテーブルがセッティングされていてどちらでも好きな方で過ごすことができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用いただいています。居室にはベットと備え付けの洗面台以外はご自分で用意してもらっています。季節の変わり目にはご家族の協力のもと衣替えの手伝いをしてもらいます。日々の掃除や家具の配置の不都合は利用者の意見を聞いて行っています	洗面台とベッドを備えた居室は、使い慣れた家具等を置いて、利用者好みの居心地のよい居室作りを支援している。衣替え等は、担当職員が家族と連絡を取りながら行い、整理整頓を心掛けている。感染防止対策としてこまめな換気と消毒を行い、利用者職員が清掃して、清潔な環境を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人が使いやすいようにベットや家具の位置を調節しています。リビングは自由に動けるようにできるだけ空間を広くとっています。お風呂やトイレには看板を付けてわかりやすくし、居室がわからなくなってしまう方には部屋の入り口に看板や目印を付けています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2293100026		
法人名	(株)オアシス		
事業所名	グループホームオアシス中之郷		
所在地	静岡県富士市中之郷3152-1		
自己評価作成日	令和5年4月5日	評価結果市町村受理日	令和5年6月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅にいるような家庭的な雰囲気を大切にしています。またひとりひとりの生きがいを尊重し個別支援に力を入れています。アクティビティを多く取り入れ季節の行事や外出の機会を確保し生活にメリハリがつくように心掛けています。近年はコロナ禍で外部のイベントは中止していましたが、コロナの感染状況を鑑みて昨年末位から徐々に外部のイベントやボランティアの受け入れを再開しています。変わらずに行っているオアシスの強みは、毎日散歩をしており季節の移り変わりを楽しみ、外気浴を行うことで昼夜逆転を防ぎ健康的な生活を送れるように支援しています。ホームで行う行事は毎月持ち回りで担当者が企画し飽きがこない工夫をしている。職員研修は毎月のホーム会議内で行い、困っていることや勉強したいことなどリクエストに応じて柔軟に対応している。職員は全員委員会活動をし環境整備や感染予防などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2293100026-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 5年 4月 28日		



V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者会議、ユニットリーダー会議、ホーム会議で理念、オアシス十か条を読み上げ全職員で共有し日々の支援に繋がるように心掛けています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日課の散歩の際に近所の方と挨拶を交わし顔見知りの関係を築いている。コロナ感染症の状況を見ながら昨年末位からボランティアの受け入れを徐々に行なっている。道路を挟み向かいの公民館の行事にも参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭り、防災訓練は以前は毎年参加させてもらっていましたが近年はコロナ禍で参加できていなかった。春と秋の溝掃除は参加させていただいている。今年から夏祭りが再開する見込みなので以前から行っているちらし寿司を作り、150食分の寄付を再開する予定		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面開催としているが、通常は2月に1回開催し市役所職員、地域包括センターの職員、区長、民生委員、家族、入居者が参加し日々の利用者様の様子や職員が行っている研修の報告をして参加者から意見をいただき支援の参考にしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターが行う地域ケア会議(4回/年)や市のグループホーム連絡会(4回/年)に参加し研修や交流会を行い意見交換をしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアになっており自由に出入りできるようになっています。身体拘束に関わる指針、マニュアルを整え身体拘束適正委員会を3か月に1回行いホーム会議内で全職員と共有している		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修会を定期的に行い自分の介護を振り返る検討会を行っています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、後見制度を利用する入居者がおり地域包括センターと連携したり、ホーム会議で権利擁護に関する研修を取り入れている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要な説明を行い入居者様、ご家族が納得した上で契約を行っています。入居前にはご家族に施設見学をしていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは日常的なコミュニケーションの中から聞き出すことがあります。ご家族には来訪時や電話対応でお話を聞きます。また玄関に意見箱を設けてあります。毎月ご家族には写真が掲載されたオアシスだよりを送り日々の暮らしの様子を見ていただいています。ご家族へのアンケートの実施をしています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は9つの委員会のうちどれかを担当しておりホーム会議内で各委員会からの研修や改善点の提案、意見交換を行っている。管理者会議、リーダー会議、で現場から聞かれる声を検討する機会を設けている。自己評価シートをもとに個別診断を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は定期的にホームの様子を見に来て職員個々と話をし意見を聞いています。ホーム会議でも取り上げて働きやすい現場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のホーム会議内で内部研修を行っています。毎回テーマを変えています。職員からのリクエストにも答えられるように対応しています。また人間学を学ぶために毎月月刊誌の対談やインタビュー記事を読んで感想文を書いてもらっています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会を通じて職員は交流会や研修会に参加しています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様とできる限り面会を重ねて信頼関係を築く努力をしています。安心して本心を語れるような雰囲気を作るように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に面談を重ね困りごとなど気軽に話せる雰囲気作りを意識して対応しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に応えられるように努めていますが本人とご家族にズレが生じていることがほとんどです。その為修正させてもらっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切に洗濯物干しやたむ、野菜の皮むき等の役割の家事を日課に取り入れて暮らしを共にする関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでは職員が支援していますがその様子を毎月のオアシスだよりで報告したりコロナ禍でも玄関での面会を行っており入居者様と職員を交えてお話させていただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人のデイサービスを利用されていた方がグループホームに入居になるケースがあるためイベントを共同で行い交流を絶たないように努めています。ホームの向かいの公民館のイベントにも参加し近所の方との関係性を継続できるように努めています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はほとんどの方がリビングで過ごされるので入居者様同士の相性の良し悪しで座席の場所を配慮しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取りをしてきた方のご家族がその後もイベントやボランティアに来てくださっています。また家で収穫した野菜や不要になった衣類(ウエスに使用)や新聞や広告でゴミ箱を折って持ってきてくれたりと今でも関係性は続いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の暮らしができるように課題整理統括表でまとめて全職員と共有している。毎月各利用者の担当職員を中心にカンファレンスを行い見直し、検討会を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と雑談を交えてお聞きしますが、本人からの聴取が難しい場合はご家族や前ケアマネから情報の提供をお願いして把握の努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	課題整理統括表や毎月のカンファレンスをもとに日々の変化に素早く気付き対応できるように現場に顔を出しひとりひとりと関わりを持つように努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は業務に入る前に日々の変化に対応できるように介護記録、特変記録の確認や毎朝の申し送りを確認します。特変があるときは看護師、医師の助言で対応します。毎月のカンファレンス意外にも意見交換を頻繁に行っており常にチームで支えているという意識があります		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録はアイパットに記録されています。日中、夜間の様子や排泄、食事、水分、服薬等の記録をしています。それ以外に特変があれば別紙に記録しいつでも共有できるようになっています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の散歩やイベントを沢山行っています。春、秋の遠足やテラスでのバーベキューパーティーや餃子パーティーに、誕生日には個別に企画して外出するケースもあります		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、防災訓練、ホーム向かいの公民館イベントの参加、近所の商店への買い出し、移動スーパーの利用等を行っています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には月2回の協力医の往診を受けていますが、歯科医師とマッサージ師の往診を受けている方が数名います。ホームへ入居前からのかかりつけ医の病院に家族対応で受診されている方もいます。往診医は内科の専門なのでそれ以外の科へ受診に行かれる方もいます。同法人の看護師は週1回訪問してきます		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師が週1回訪問してきます。利用者様全員と面会し心身の観察をしています。その他爪切りや衛生面の管理をしています。必要に応じ電話相談したり特変時には訪問してもらいます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は同行しています。入院中も情報共有に努めています。退院のタイミングや退院後の方向性のアドバイスをもらったり相談しています。日ごろから医療機関の地域支援相談室と連絡を取り合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際の対応について指針、マニュアルを整え入居の際に利用者と家族に説明し同意を得ています。重度化した際には再度医師と共に家族に説明し家族の意向の再確認を行い看取りまでお受けします。その都度の情報は全職員で周知しています。職員は重度化や看取りに関する研修を定期的に行います		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急蘇生法の研修を受けています。緊急時の対応に関しては研修会を行います		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加してもらいます。津波や土砂災害の際はホームの2階が近隣高齢者の緊急避難場所となっています。ホームでは年2回防災訓練を行い10日ほどの水、食料品等の備蓄をしています		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居時に個人保護について利用者、家族に説明し、オアシスだより、新聞等の記載の同意を得ています。また基本的人権の尊重と利用者本位の介護を行うように認知症、虐待、接遇等の内部研修を定期的に行い職員の意識の向上を図っています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの個性を引き出せるように傾聴したりよく観察しています。過介護にならないように残存機能を活かし意欲を引き出せるような関りを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のご希望を最優先できるように心掛けています。レクリエーション活動もご自分で選べるように複数用意し対応しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問美容を利用し髪を整えています。夜はパジャマに着替えて朝は基本的小さいご自分で選んで着替えていただいています。毎日お化粧される方もいますがほかの女性は外出やイベント時に口紅をつけたりしておしゃれします。男性は毎朝髭剃りをし清潔を保ちます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は野菜の皮むきや切る、炒める等の調理補助をしてもらっています。地元のスーパーから食材を仕入れ職員が当番制で調理します。週3回は調理師が昼食とおやつを調理します。誕生日は本人のリクエストに応えます。正月のおせち料理やお餅、遠足のお弁当、外食を取り入れ楽しんでいただいています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回記録し十分とれていない場合はおやつや回数を増やしてバランスをとります。また毎食寒天ゼリーを提供して水分と排便のコントロールの補助食にしています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は個別に口腔ケアを行います。できない部分は介助させていただきます。食事前にマスクを回収し口腔ケア後にお返しするのでお忘れを防ぐ事に役立っています。口腔内にトラブルが生じた方は訪問の歯科医師に診てもらいます		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の排泄パターンは把握していますのでトイレでの排泄を支援しています。オムツを使用せず肌に心地良い布パンツとパットを使用している方がほとんどです。身体的に大変な方も二人介助にてトイレでの排泄を行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	夜間に休んでいただけるように毎日の散歩と体操で身体を動かしていただいています。10時のおやつはフルーツヨーグルトを食べていただき毎食時に食物繊維と水分補給に寒天ゼリーを提供しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴をしていますが本人の希望に応じて増える場合や時間帯の変更も対応しています。女性の利用者で男性の介助を拒否する方は同性介助を実施しています。1階と2階の浴槽の作りが異なるため、交代して利用することもあります		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室で横になる方の時間は基本的に本人に決めてもらっています。就寝時間も本人の休みたい時間に休んでもらうようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬委員があり服薬管理ファイルに個人の服薬情報が入っています。病院からの処方や薬のメーカーが変わっても間違えないように配薬と服薬の際に職員2人でダブルチェックをします		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性は主婦をしていた方が多いので洗濯や調理等の家事を手伝ってもらっています。カラオケ、歌、読書、手芸、将棋、囲碁等それぞれが楽しめるように配慮しています		

静岡県(グループホームオアシス中之郷)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では散歩や近所の商店に買い出し、移動スーパーで買い物等をしています。春、秋の遠足のほかに誕生日に外出支援を行っている。コロナ禍で家族との外出ができていなかったが今後の感染状況を鑑みて再開していく予定です		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は家族管理ですが近所の商店への買い出しや移動スーパーでの買い物はご自分で支払う方もいます。ご自分でお金を持っている方は少額で無くなったら家族に千円～三千元位を補充していただいています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙はいつでも自由に使用でき利用にしています。ご自分で携帯電話を持っている方もいますがほとんど使用していません。ホームで年賀状や暑中お見舞いののがきを送っています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除して清潔を保っています。テレビの音は大きくなりすぎないようにし食事の時には静かなBGMを流しています。室温は軽装で過ごせるようにしています。中庭があり光が入り晴れた日は日向ぼっこする方がいます。室内は季節に合わせた装飾を心掛けています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにベットがあり居室に行かなくてもどなたでも気軽に横になることができます。またリビング、ダイニングともテーブルがセッティングされており、どちらでも好きな方で過ごすことができます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できる限り自宅で使い慣れた物を使用いただいています。居室にはベットと備え付けの洗面台以外はご自分で用意してもらっています。季節の変わり目にはご家族の協力のもと衣替えの手伝いをしてもらっています。日々の掃除や家具の配置の不都合は利用者の意見を聞いて行っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は本人が使いやすいようにベットや家具の位置を調節しています。リビングは自由に動けるようにできるだけ空間を広くとっています。お風呂やトイレには看板を付けてわかりやすくし、教室がわからなくなってしまう方には部屋の入口に看板や目印を付けています		